

# 明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成 全3巻

川戸道昭・新井清司・榊原貴教 編

B5判・上製・総960頁 全3巻揃 4-901061-06-2 定価(本体50,000円+税)〈分売不可〉

[企画:ナダ出版センター、発行:アイアールディー企画 2001.1刊] ★総販売元 大空社出版

■「探偵小説」が登場する19世紀イギリスを、明治期の日本が「翻訳」を通して捉えた姿とは? 文学のみならず社会・文化研究に魅力あるテーマを与えるユニークな集成



●本書は明治期に発表されたコン・ドイル著『緋色の研究』と『シャーロック・ホームズの冒険』の翻訳集成である。

『シャーロック・ホームズ』探偵物語の翻訳は、全訳が本格的に始まるのは大正期以降であるが、明治期にも『緋色の研究』『四つの署名』は幾種類か訳され、また『シャーロック・ホームズの冒険』には全訳もあり、シャーロック・ホームズには興味津々の時代である。日本人がどのような訳でシャーロック・ホームズを受容してきたのかを知ることは、探偵小説史の上ばかりか、探偵小説が登場する十九世紀のイギリス市民社会を日本人が明治期にどのように受容していったのかを知る上でも重要なことである。近代以前、『文学』という言葉は、人間の学と同義語であったが、近代に至り『文学』は芸術の一領域へと転身した。この時、探偵小説は文学という領域の中に地歩を確保した。それは活字による教育が普及した結果、知性の余剰を生み出し、文学の中にも遊戯性が取り込まれるようになったためと思われる。明治の後半から現代に至るまで、この環境は引き継がれている。

このような歴史を振り返ることは、現代文化を考察する上で必要なことであるが、明治期の翻訳は稀観書であったり、埋没し再評価が遅れていることもあって、入手困難で読むことができない。こうした現状に鑑みて、長年シャーロック・ホームズ書誌を手懸けてきた編者が協力して復刻版と書誌年表を企画し、明治期のシャーロック・ホームズ受容史を一望できるように編集した。本集成によって、今日なお層の厚いファンを持つ日本の探偵小説・推理小説の原点とその歴史を研究していただければ幸いである。(刊行に際して抄)

このような歴史を振り返ることは、現代文化を考察する上で必要なことであるが、明治期の翻訳は稀観書であったり、埋没し再評価が遅れていることもあって、入手困難で読むことができない。こうした現状に鑑みて、長年シャーロック・ホームズ書誌を手懸けてきた編者が協力して復刻版と書誌年表を企画し、明治期のシャーロック・ホームズ受容史を一望できるように編集した。本集成によって、今日なお層の厚いファンを持つ日本の探偵小説・推理小説の原点とその歴史を研究していただければ幸いである。(刊行に際して抄)

### (収録作品抄)

#### 第1巻 緋色の研究

- ☆明 32・4 血染の壁 (無名氏訳 毎日新聞)
- ◎明 33・9 倫敦通信 新陰陽博士 (原抱一庵訳 文芸倶楽部)
- 明 34・11 モルモン奇譚 (森嶋峰訳 時事新報)
- ☆明 39・11 神通力 (風葉山人訳 読売新聞)

#### 第2巻 シャーロック・ホームズの冒険 1

##### 「赤毛組合」

- ◎明 32・8 不思議の探偵 禿頭倶楽部 (水田南陽訳 中央新聞)
- ☆明 40・4 『銀行盗賊』 (佐川春水訳 建文社)
- ☆明 44・11 紅髪組合 (郡山経堂訳 『統英国探偵奇聞録』)
- 明 45・6 探偵奇聞 地下の秘密 (森嶋山訳 日本青年)

#### 第3巻 シャーロック・ホームズの冒険 2

##### 「唇の曲がった男」

- ◎明 27・1 乞食道楽 (無署名 日本人)
- ☆明 32・9 乞食の大王 (水田南陽訳 中央新聞)
- ◎明 36・10 偽紳士 (小羊生訳 慶応義塾学報)
- ☆明 40・12 乞食紳士 (本間久四郎訳 『神通力』)
- 明 42・5 紳士か乞食か (手塚雄訳 東西社)

【参考】(翻訳年表より)

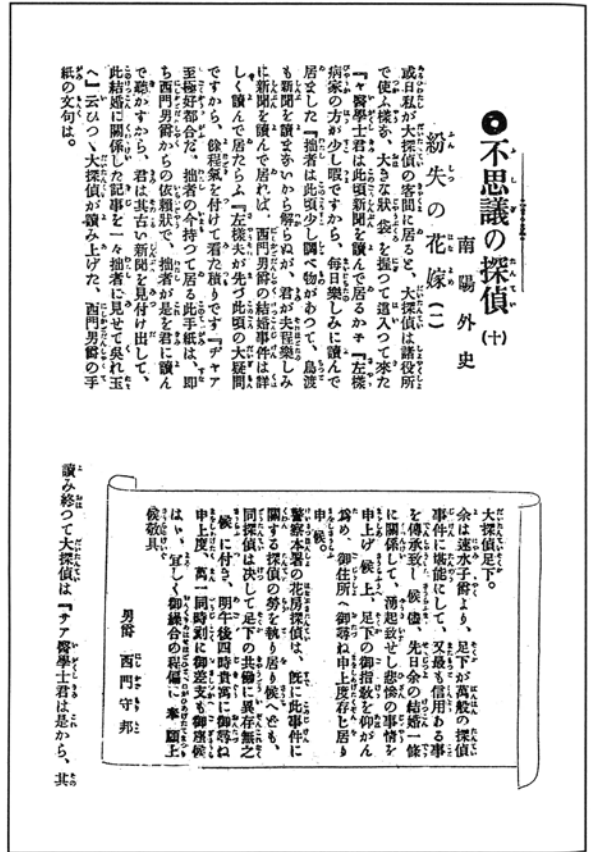
☆は本集成に収録の作品、◎は『明治期翻訳文学全集』(新聞雑誌編) 8・ドイル集に収録。

\*本集成の全収録作品はホームページに掲載しています。

学術資料出版

## 大空社出版

www.ozorasha.co.jp  
eigyo@ozorasha.co.jp  
TEL:03-5963-4451  
FAX:03-5963-4461  
東京都北区中十条4-3-2 (〒114-0032)



183 紛失の花嫁 水田南陽訳 [中央新聞 明治32年9月21日]



紛失の花嫁 水田南陽訳 [中央新聞 明治32年9月21日] 184